

すすき陽悦 後援会 ニュース

発行 すずき陽悦後援会 発行責任者 京野 康則
連絡先 〒011-0936秋田市將軍野南2丁目3-34
電話 018-846-9211 FAX 018-846-9212

ホームページ <http://www.suzuki-youetu.jp>

激動の08年、決意新たに
企業立地促法で雇用の拡大
わか杉国体プロデューサーに聞く！
国会の歴史語る憲政記念館

激動の08年政権交代へいざ！

解散にらみの波乱国会か！

明けましておめでとございます。議員として迎えた4回目の正月、2008年の幕開けに思いを新たに頑張る決意です。民主会派に加わってから初めて臨む通常国会ですが、参議院に於いては昨年の選挙結果により与野党逆転の、波乱含みの国会運営が続いています。しかしながら安倍総理が数にものを言わせ、国会審議を軽視して強行採決を繰り返していた一年前とは大幅な様変わり、参議院で野党が過半数を得てから、日本の政治がより透明感を増してきているのではないのでしょうか。歴代の与野党で間に隠れていた「腐敗」が次々に明るみに出て、特に守屋前防衛事務次官の問題は、その象徴でもあります。参議院で多数を占める野党が議長や委員長ポストを得て、国会運営の主導権を握って揺さぶりをかけて来た結果であり、参院選での逆転はこうした意味合いからも大きな意義があると思います。

ところで政治の世界は一寸先は闇・・・と言われ、いつ政局になるのか？波乱含みの新年の幕開けですが、昨年から様々な憶測が飛び交っています。「通常国会冒頭解散」「予算成立後解散」「サミット終了後解散」「任期満了もある・・・」などなど、福田政権誕生後、諸説がまことしやかに報じられ続けましたが、各政党の公認候補も連日明らかになっていて、2008年の幕開けは完全に選挙戦モードです。給油新法案の成立を目指し、国会を再延長した福田総理は参議院で否決された場合の衆院再議決も辞さない構えですが、対米公約の最優先では済まされない防衛省の「疑惑解明」や省庁の無駄遣い、それに、天下り太りに蓋をするわけにはいきません。何とか柔和な雰囲気でも世論をかわりたい総理ですが、国として何を指し、どう進むのかもさっぱりわかりません。「自立と共生」についても言葉の奥に実態が見えてこないのです。一刻も早く衆院を解散し、民意を反映させるべきではないでしょうか。



12月4日の経済産業委員会で
地域活性化策を質す

今、日本の抱える問題は山積しています。経済活動優先、グローバル化、規制緩和と路線から沸き起こった「ひずみ」は、格差・貧困・弱者いじめなど最早危機的な状況に陥っています。特に地域間格差の拡大は深刻で、有効求人倍率ひとつを見てもその差は歴然としています。

私は一貫して地域活性化、地方の元気を主張し続けてきましたが、国の「場当たり」的政策ばかりが目立ち、決定的な特効薬は見出せていないのが現状です。安倍内閣の掲げた「美しい国」は机上の空論よりもむなし響きがありました。「地方の声を聞いてほしい」「地域の実情を見てほしい」「こうした地方の声を参院選の結果です。そして今、ようやく国も政府も「地方」に軸足を移した方策をとらざるを得なくなりました。

福田総理の所信表明演説では「地方の声に真剣に耳を傾け、地域再生機構の創設等、決してばらまきではなく、政策に工夫を重ね丁寧に対応する、地方再生への構造改革を進めていく」と表明しています。裏返すと、いかにこれまでの地方再生戦略は官僚主導的で、地方の声を真剣に聞いていなかったか、今更ながら地方を置き去りにして来た証明でもある様に受け止められます。

兎に角、選挙を睨むように、地域格差を解消しようというお題目の対応策が次々に打ち出されています。有効求人倍率の低い秋田を

含む8道県を対象とした再生プロジェクトを初め、地方・地域に関連した「地方再生戦略」が打ち出されています。特徴は、省庁横断・施策横断により「地方の元気再生事業」を総合的に支援して行くというもので、発想と着眼次第ではチャンスが広がる可能性もあると言えますが、既に疲弊しきった地域を回復基調にするには、国の青写真だけでは済まされません。

机上の計画で全国一律の対応には疑問符だらけです。地域に足を運んで実情を把握しなければ掛け声だけに終わってしまいます。地方の声とやる気を喚起する努力は、国民の代弁者である国会議員はもちろんで、国・政府あげて取り組んで行かなければなりません。

地域再生の鍵は、1つには「モノづくり」です。日本古来からの伝統技術と、新しい分野を切り開くパワーこそが日本、地方の持ち味でした。地域の特性を活かした「モノづくり」に再着目して地域の人が地域を生かす「地産地生」に取り組んで行かなければなりません。

2つには「人づくり」。地域をしつかり見つめ、新たな挑戦に燃える人材は各地に存在しています。地域のコミュニティを着実に発展させ、小さな「芽」を大切に育てあげなくてはなりません。

3つには「まちづくり」です。全国に共通するテーマで以前青森市のケースを紹介しました。短期・中期・長期を見据えた対応が必要で、外から冷静に見た「よそのもの」、将来を担う「若者」、夢中になって取り組む「ばか者」それぞれの目線が必要で、この「3者」の要素こそがまちづくりの必須条件です。

そして最後は「夢づくり」です。今の地域に一番必要な要素ではないでしょうか。ここに大きな「夢」を描きながら取り組んで行ければ、幾多の困難を乗り越える事が出来るのではないのでしょうか。みんなで大きく共有できる「夢」を政治の中から。そんな熱い思いで今年一年チャレンジします。

すすき陽悦の提案

地方の再生は

「モノづくり・人づくり・まちづくり」、そして「夢づくり」

雇用の拡大に朗報!

企業立地促進支援に県内3地域の計画が

地域の特性や強みを生かした企業の立地を進め、地域産業の活性化を図る目的で昨年施行された企業立地促進法。これに申請した計画の承認は、これまで(11月末現在)全国で23道府県の40地域となっていて、この内県内からは3地域が該当しました。秋田は、これまでになく積極的な取組で雇用の拡大に期待が寄せられています。県内3地域の基本計画を紹介します。

企業立地促進法とは

グローバルな競争時代に、地域の特性や強みを生かして地域産業の活性化を支援する法律。実際には企業立地や産学官連携、広域連携を展開し、地方の熱意が強く合意され全国、世界展開できるような考え、グローバルにローカルをプラスし「グローバル」をキーワードとしている。

支援措置としては立地企業の投資減税、地方税減免に対する補助、産業集積による施設整備費助成、企業誘致、人材育成活動助成、他のインフラ整備、農地転用、大学、高専との連携など省庁横断も特徴。スキームは事業主体が自治体に計画申請し、市町村などが地域産業活性化協議会を立ち上げ基本計画を策定し国と協議、国が同意し自治体が承認する。昨年6月11日の施行、7月30日第一回同意以降、これまで3回の同意で合計23道府県40計画に同意書が交付されている。

全国第一号承認の 電子・輸送機関連産業の県央・南部地域

電子部品・デバイス産業が集積する秋田市・由利本荘市など県中央・南部地域の6市1町が対象で、電子・輸送機関連産業の更なる集積を目指します。県立大学・秋田大学それに地元研究開発企業が連携し、電子・デバイス、自動車・航空機分野の高度開発を進め、製造品出荷額400億円の増額、新規雇用数2000人を平成23年度の成果目標に掲げています。

これにあわせTDK株が由利本荘市の25万㎡の用地に昨年度、新工場を着工。今年春の操業を予定しています。

また、岩手県金ヶ崎町への関東自動車工業の進出を機会に近接地の横手市を中心とする地域が自動車産業への参入を目指して、人材育成や受注拡大に動き出しています。

資源リサイクル関連産業

医療関連産業の集積 県北・県央地域

平成11年の県北部エコタウン計画で培った資源リサイクル技術を基に、空港・港湾などの物流インフラを活用し更なる集積をはかると共に、規制緩和に伴う医療機器・医薬品企業を集積し、医工連携による医療機器産業を育成するもので、いずれも県北・県央の大手企業を中核として生産拡大企業集積を目指します。地域は能代市・大館市・小坂町など6市4町1村で、目標に向けて能代・秋田港の整備、研究機関との共同開発や技術指導、立地企業の職員研修などに取り組みます。

平成23年度を目標に製造品出荷額は134億円の増額、新規雇用数750人を見込んでいます。

伝統の木材産業を高付加価値化 県北・県央地域

秋田の主要産業の木材関連産業について、新しい工法や部材の開発などで付加価値を高め、競争力をつけることを目指します。

既存企業の木材関連産業の集積で、能代市・上小阿仁村など県北部・県央部の5市3町1村を対象に、人工林資源を活用して経営の集約化、安定的な製品需要の確保をはかり需要の拡大を狙います。

このために米代川エリアの産学官連携を進めます。具体的には、能代市の技術開発施設の整備や秋田大・県立大、それに県の技術を移転し企業を高度化すると共に、高校・技術専門高連携で人材の育成を図ります。

目標は平成23年度で製造品出荷額25億円の増額、新規雇用数500人を見込んでいます。また、スギ樹皮・端材によるバイオマス発電などにも取り組みます。



すずき議員は企業立地促進法の審議で、この法律の適用により企業の不動産所得税や固定資産税(地方税)が減免されるが、この減免が地方自治体へ影響を及ぼすとして地方交付税で補填すべきだとしました。これに対し国は、財政力指数や有効求人倍率を考慮し補填すると答弁し、秋田県を初め、企業の地方進出に拍車がかかる大きな成果となりました。

秋田市の那珂静男さんと 秋田の元気を語る

すずき 国体お疲れ様でした。そして感動しました。

すずき ずいぶん「苦労されたんでしょうね。」

那珂 総勢500人近い人たちが動かすのは骨の折れる事でしたが、苦労したのはスタッフのほうではないのかな。特に、開会式最初のイヌワシを表現したカイトはりハールが全とうまくいかなかったのに、本番は完璧で、同じ事を今やれと言われてもできないと思います。感謝してます。

すずき 私も度肝をぬかされました。また老若男女が活き活きと大ステージをこなしていました。

那珂 秋田の人の底力を見たようで、同時に大きな財産と思いました。今回は、冬の国体で仙人の声を、本大会はイヌワシの声、わ



か杉大会は障害をもつ子ども達の声をそれぞれ皆さんに届けました。秋田の持つ豊かさを現し、秋田の良さを再確認してもらい、自信をつけてもらおうとのメッセージを込めて演出しました。

すずき 手応えがあったと思います

那珂 全然面識のない人から「おめでとう」と言われびっくりしました。

すずき こうした機会を是非秋田の元気に結びつけたいですね。ところで、

那珂さんは地域の活性化と言つことも活躍されておりますが、活性化をどう捉えているのでしょうか。

那珂 活性化への願いは人一倍強いと思います。私の考えは安易に答



那珂 静男

(昭和22年秋田市生まれ)



「ジャズスポット ロンド」経営。昭和32年秋田市に開店、秋田ではジャズスポットの草分けのお店。世界一流のジャズミュージシャンをたびたび招いてコンサートを開催。昭和61年自主映画「隙間」の制作から映像制作活動も開始。平成12年CM「処方箋があれば」がギャラクシー賞など各賞を受賞。秋田わか杉国体式典ディレクターとして冬の国体、本大会、わか杉大会を演出し大成功を納める。今年の全国植樹祭も手がける事に。

えを出そうとするような活性化策ではなく、自然発生的と言いますが、必要に迫られて生まれてくるもの、または自分たちにある潜在能力をいかすもの、地域住民とそれを取り巻く人たちの街の再認識から生まれたいと考えています。早急なイベントや物まねで結果はついてきません。有名な話ですが「モントルジャズフェスティバル」皆さんご存じでしょうか、元々ただの避暑地だったところですが、大勢の人がのんびりと過ごすわけ



で、暇をもてあます多くの人たちに少し音楽でも聞かせましよう、地元ミュージシャンのジャズが始まりました。そうしたら有名どころがチリポリと来始め、輪が広がっていったと言つことですね。



すずき 秋田というのはどんなところで、その特性を生かすには、どうむきあっていったらよいでしょうか。

那珂 寒い国には寒さをしのぐ工夫、衣服、住まい、食べ物に苦労したり、工夫したりする文化がある。南の国からは、四季がはっきりしているところへの憧れがあると思います。大切なのは自分の土地の良さを理解し

ているかにつぎるのではないのでしょうか。昔は米の収穫が終わわり、農作業が一段落すると秋田の広小路が活気づいたと言われるほど、農業と地域が密接になっていました。

それを忘れてはならないと思います。昭和レトロがブームのようですが、かつての秋田も子どもが遊びおじさんが縁台で将棋をしていました。日照時間が少ない秋田だからからこそ日だまりを意識して、家から外に飛び出して季節を感じています。そうした季節感や喜びを共有できるところなんです。こうした啓蒙運動をしていくことは大切ではないでしょうか。先日、日本を旅行中のスウェーデンのご夫婦が店に寄つてくれましたが、京都を訪れて街が汚いのびつくりし、3泊する予定をキャンセルし秋田にきたとついで、それで秋田はどうですかと聞きましたら、「もう3泊していきまます」とうれい一言が帰つてきました。外から来る人はよくわかるんです。秋田を変えてやろうという元気な若者に一言お願いします。

すずき

那珂

とにかくオリジナリティを持って行動してもらいたい。どこかで見たようなコピーを簡単にしないで、一生懸命知恵を絞つて発想して欲しい。その結果、今は何もしないと選りも間違いではないと考えます。我々をギャフンと言わせて欲しい。

すずき

那珂

私に対する注文を元々行政と活性化は相反するものだと考えていて、活性化がダイナミックになれば規制が加わる、そこに利益優先の業者が介入し、活性化の純粋な部分が消えていきます。その中に入って調整するのが政治の役目ではないでしょうか。また、すずきさんには常に地域の状況を知つて欲しいし、私たちが提案できない、例えば行政などにどんな注文を、もの申して欲しいと思つています。今までも行動しているのは皆知つています。それを活かすためにも後世に繋



る足がかりをつくるよう頑張つて欲しいと思います。

すずき 全国植樹祭もてがけるようですが、

那珂 今の秋田の自然考える絶好の機会だと思つます。「手をつなごう森と水と私たち」と言うテーマですので、地球温暖化や環境問題を含めて、秋田が将来進むべき方向が見えるようなメッセージを、発信していきたいと準備しているところです。北秋田市の北欧の森に建築家安藤忠雄さんの会場設計で、再び式典演技を担当します。どうぞ注目して下さい。



那珂さん
貴重なメッセージ
ありがとうございました

時々お店に顔を出していますが、じっくり話をしたことはありませんでした。かなりの経験から、話す言葉には重みを感じ秋田を愛する気持ちがひしひしと伝わつて来ました。秋田の自然、人、風土を大切に、その良さを活かして活性化に結び付けていく、焦らずじっくりと構え、小手先にとらわれない知恵をひねり出す、那珂さんならではの味のあるお考えです。

私もすっかり課題を預けられました。常に秋田の状況を把握しておく。住民、行政、業界との接点になれとの指摘かと理解しました。全力で頑張つてまいります。

全国植樹祭は今年6月15日に県立北欧の森で、天皇皇后両陛下が出席されて開催されます。那珂さんの口ぶりでは、またまたサプライズがあるかもしれせん。それにしても、準備に焦る様子もなく淡淡々としているのは国体大成功の自信から来るものでしょうか、うらやましい。



ジャズスポットロンド

すずき陽悦

新緑風会でデビュー

すずき陽悦議員は、9月に民主党・新緑風会入りし、引き続き経済産業委員会で民主党会派の理事に就任したほか、新たに災害対策特別委員会委員となり、審議調整や役員会などこれまでにならぬ活動に連日大忙しです。



9月10日には本会議前の議員総会に出席し、平田健二幹事長から「既に仲間の感があります」と前置きされ紹介を受けました。そして、改めて決意表明し大きな拍手で迎えられ、デビューしました。経済産業委員会の理事の役割は、主に審議の質問者及び質問内容の調整役で、慣れない動きで気を遣うとは本人の談。

さらに、衆参合同の部門会議が毎週開かれ、経済産業省の法案説明や業界団体や識者からのヒアリング。そして、選挙を睨んでのマニフェストづくりへと進んでいきます。

また、ネクスト大臣が入った役員会も毎週開かれ、政調との調整、小委員会やプロジェクトチームの設置などの協議、ほぼ毎日開かれている勉強会もあり、日程調整が一苦労だと言っています。

3枚目の写真は経済産業委員会理事懇談会の写真です。委員会を前にして毎回開かれているもので、各党の代表が顔を揃えます。議員の理事就任と言うことで特別にお願いして撮ったもので、非常に珍しい一枚です。構成は民主3人、自民2人、オプザバーとして公明、無所属の各1名となっていて、これまでは発言権の無いオプザバー参加のすずき議員としては、隔世の感です。



豪雨県北直撃！

激甚災害指定を要請

北秋田市の被災地へ



9月17日から18日にかけて、台風11号は県北部の北秋田市を中心に豪雨災害をもたらしました。すずき議員は被災現場を訪れ、被災者の状況を聞き取り、被災者の皆さんをお見舞いしました。住民の皆さんは口々に「これまで経験したことのない急激な水位の上昇で、着の身のまま避難するのが精一杯だった。」と恐怖を振り返りました。また、被災地からは、当時の被災者支援策は該当するケースが稀で使い勝手が悪いとの指摘や、激甚災害指定を要請する声が多く聞かれました。すずき議員はこうした状況を頭に焼き付け、省庁要請活動に積極的加わって行きました。



西村副知事と各省庁に要請

9月26日、西村副知事とともに霞ヶ関の関係省庁へ状況の説明と復旧に向けた要請をし、内閣府防災担当、国土交通省、厚生労働省、農林水産省などを訪問しました。特に国交省次官、農水省次官をはじめ、担当局長に直接お会いして陳情でき



たことで、副知事も秋田の実情を伝えられたと手応えを強調していました。

感動の秋田国体

わか杉大会

9月29日、第62回国民体育大会が開幕しました。開会式は秋晴れに恵まれ、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、爽やかに繰り広げられました。全国47都道府県の選手・役員の入場行進、最後の秋田県選手団は圧巻の大選手団が堂々の行進を繰り広げました。炬火は競技場内でも受け渡しが行われ、46年前と同じ山田敬蔵さんもランナーとして登場するサプライズもあり、感動の幕開けとなりました。



開会式の県選手団



山田敬蔵さん(中央右から二人目)

県選手団の活躍ぶりは連日報道され、その成果が最終日10月9日の閉会式で発表されました。見事に天皇杯・皇后杯に輝き会場は達成感と感動に溢れました。開・閉会式に参加したすずき議員は、昭和36年の秋田まごころ大会に想いを寄せて、「県民のまごころの結集が再びの感動を呼び起こした」と感想を語りました。国体において全国障害者スポーツ大会・秋田わか杉大会が13日から開幕しました。開会式では栗田養護学校の太鼓演奏なども披露されました。また、炬火はマラソンの浅利純子さん伴走、アテネ・パラリンピックで金メダルの高橋勇市さんがランナー、友情と絆の見事な演出でこちらも感動の大会となりました。



開会式で天皇杯が授与された



秋田わか杉大会

由利本荘市議と勉強会

すずき議員は、10月23日由利本荘市議会会派「フォーラム輝」の5人の議員と参議院議員会館で政策勉強会を行いました。



議員の皆さんからは、前もって「シャッター通りの商店街をどう活性化するか、道路や都市インフラ整備の要望、政府の地域活性化政策について、鳥海ダム建設の進捗状況、政府の品目横断的農政改革について地元の声伝えたい」など要望が寄せられていました。

すずき議員の提案で、経済産業省、中小企業庁から中心市街地活性化政策、企業立地政策、産業クラスター政策等の担当者など地域経済政策担当、また国土交通省、農林水産省のそれぞれの担当と意見交換をしながらの政策懇談会になりました。秋田の活性化のために政府が新たな産業政策を制度化している、中小企業向けの様々なメニューがあること。すずき議員が経済産業委員会理事として日頃から経産省との政策的協議に活発に取り組んでいることに理解をいただきました。

議員の皆さんから「これまで国の政策で知り得なかったことをわかりやすく理解できた。直接地域で考えている要望について、すずき議員等の要望で国の担当者も課題としてしっかり認識していることを知った。また何より直接政府の担当者から詳しい話を聞いて多くを学び、直接地元の声を伝えることができた。今後地元議会の政策立案に大変参考になった。」と感想をいただきました。



全会一致で被災者支援

すずき議員は10月31日の災害対策特別委員会で初質問を行い、県北部に被害をもちたらしめた台風11号豪雨災害の復旧などを中心に政府の取組みを質しました。臨時国会初の災害特、しかも本人は初めてのおえ、トップバッターの大役を仰せつかりました。高まる意気込みをおさえるかのように冷静に現地を視察した様子を泉信也防災担当大臣に伝え、被災者が安心して普段の生活に戻れるよう求めました。大臣からは災害被災者対策、農業の共済対策等について取り組む決意が述べられました。また、総務省への質問では、被災した地方公共団体の財政運営に支障がないよう、特別交付税や地方債など地方財政措置を講ずるよう求め、省で適切に対処するとの、これまでにない踏み込んだ答弁を引き出しました。

災害特では、大規模な自然災害被害の支援をする改正被災者生活再建支援法が審議され、11月9日衆参両院の本会議でも全会一致で可決、成立しました。

「ねじれ国会」で初めて成立した法律で、与野党協議の成果として、今後の国会運営を示唆する画期的な法案成立となりました。与野党案が出された改正法案は、当初、双方がメンツにこだわり修正協議が進まず、両案とも成立しない恐れがありました。しかし、生活関連法案で急を要するなど、与野党が「成立が遅れば被災者の理解が得られない」との認識で一致し協議が進み、骨格部分は与野党を、民主は適応を1月まで遡及し、能登半島地震、新潟県中越地震、秋田の豪雨災害も改正後の新制度で対応するよう求め、与野党が歩み寄りしました。すずき議員は参議院に提出された与野党合意案（議員立法）に賛成者の一人として名前を刻むことになりました。新法が秋田の豪雨災害に適用されることで大きな成果と受けとめています。



災害も改正後の新制度で対応するよう求め、与野党が歩み寄りしました。すずき議員は参議院に提出された与野党合意案（議員立法）に賛成者の一人として名前を刻むことになりました。新法が秋田の豪雨災害に適用されることで大きな成果と受けとめています。



「ねじれ国会」で初めて成立した法律で、与野党協議の成果として、今後の国会運営を示唆する画期的な法案成立となりました。

サンローズの会発足

すずき議員の活動をサポートする女性たちの集まりである「サンローズ」の会が11月10日発足しました。6月に設立準備会を開き、世話人会をつくり準備を進めていたもので、当日は大館市や由利本荘市など秋田市以外からも約100人が駆けつけました。伊藤カツ子会長をはじめとする初代の役員を選出した他、今後の活動計画を話し合いました。サンは「陽悦」から太陽のSUN。ローズは夫人の好きなバラになんでのネーミングです。総会終了後は昼食会、そしてすずき議員から国会での話あれこれ、さらにはフラワーデザイナーあべ・ひろみさんのクリスマステーマとしたアレンジメントと、抽選なども行われ、楽しいひとときを過ごしました。

なお、1回目の役員会を11月22日に開き、ゴールデンウィークの牧場訪問や6月の総会、11月の国会見学等のほか、会員が制作した作品の施設への寄贈に取り組みこととし、詳細は役員会で決めながら会員への案内をすることにしました。また、少人数による昼食会など、相互の親睦を深めていく事にしています。



伊藤カツ子会長



久々のツーショット



久々のツーショット

米価も下落！危機突破要請

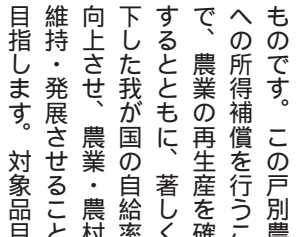


水田農業危機突破秋田県代表者会議

スタートした品目横断的経営安定政策。しかし「米あまり？」を反映してか、かつてない低米価。「このままでは農業は続けられない」と農業者の不安の声が各地から起っています。すずき議員も東京での要請行動の他11月12日の「水田農業危機突破秋田県代表者会議」12月8日の「JA秋田しんせい農政集会」など秋田の集会へも参加し、激励の挨拶を行っています。

このころ変わる猫の目農政と批判され、ついに農業にも競争原理を導入、大規模農家を対象とした支援への移行など、農業潰し、農家潰し、農村潰しが続き、耕作放棄地の拡大、限界集落の増加と日に日に地方が衰退してきています。そして、食糧自給率は40%以下と、先進国では例を見ない低いものとなっています。こうした不安に対すす議員は、この現状に追いついた自民党農政を批判しながらも、民主党会派が提案している「農業者戸別所得補償法案」の説明や、「農商工連携政策」、「地域ブランドの取り組み」などを訴え秋田パワリーの全国展開を強力にアピールしました。

民主党の農業者個別所得補償法案とは、政府は、昨年4月から、「品目横断的経営安定政策」を導入しました。いわゆる「担い手経営安定新法」によるもので、国の支援を大規模な経営耕地面積の農業者を中心に据え、大小によって絞り込む「選別政策」をとっています。これに対し、戸別所得補償制度は、経営面積、年齢に関わりなく、意欲を持って取り組む農業者に対し、生産費と販売価格の差額を基本とした補てん、「戸別所得補償金」の交付を行うものです。この戸別農家への所得補償を行うことで、農業の再生産を確保するとともに、著しく低下した我が国の自給率を向上させ、農業・農村を維持・発展させることを目指します。対象品目は



JA秋田しんせい農政集会



JA秋田しんせい農政集会

柏崎刈羽原発を視察



柏崎刈羽原発

生産費との差額ですから米を初め全ての作物で、対象農家は、政府の認定農家や大規模耕作面積、集落営農組織等のハードルの高いものではなく、幅広く門戸を開放し、新規就農者をはじめ、意欲ある全ての農業者が制度に参加できるようにすべきとしています。注目の1兆円の財源確保については、現行の予算約3,600億円と、農林水産省予算2,7兆円の1割節約、国全体の財源の節約により3,000〜4,000億円を捻出するとの考え方も示されました。

11月27日、参議院経済産業委員会による新潟県の「東京電力柏崎・刈羽原発」視察が行われました。昨年7月発生した震度6強の新潟県中越沖地震からおよそ4ヵ月半、住家や道路などの復旧は着々と進んでいます。ただ古いビニールシートがかけられたままの家屋が点在していて、深い爪あとを物語っています。

被災地入りは3回目ですが、今回は当該の委員会として原発に集中した視察と検証です。変圧器火災発生、放射能を含む水の漏洩と海洋への放出、主排気筒からヨウ素及び粒子状放射物質を検出、固体放射性廃棄物を保管しているドラム缶が多数転倒等のほか、地震計本震データの一部消失など、安全に対する信頼が大きく揺らぎました。視察では6・7号機を中心に、中央制御室や原子炉圧力容器や配管、更には制御棒水圧ユニット、原子炉燃料交換床などをつぶさに見て回りました。国内エネルギーの中心を成す原子力発電ではありませんが、「安全・安心」の確立には幾重にもわたるチェックが求められますし、「想定外」はありえません。



柏崎刈羽原発を視察

9月



スポーツの秋、早朝から秋田市内は運動会を告げる狼煙が上がりました。秋晴れの中の「寺内ファミリンピック」が市内小学校で開かれ、地元住民の議員も駆けつけ、先ずは準備体操に汗を流しました。3世代入り交じつての様々な競技は、地域ならではのものが、大切に続けなくては。



道の駅十文字

秋田市の東西を地下で結ぶ『秋田中央道路』のトンネル部分2.5キロが完成し、15日開通式が行われました。今回の開通で交通渋滞の緩和と高速道へのアクセス利便性に期待の声がありますが、どうでしょうか？



「道の駅十文字」が16日横手市十文字の国道13号線に完成し、オープンしました。県内26番目の道の駅です。テープカットでお祝いし、早速地元産農産物の直売コーナーへ、さすが議員は買い物大好きです！



17日、日本海沿岸自動車道岩城ICと、にかほ市両前寺間が開通しました。国と地方が事業費を分担する新直轄方式の全国第一号です



大仙市で開かれた国政報告会です。参議院選挙後の国会情勢や農業問題、まちづくりなど、熱のこもった質疑を繰り広げました。

17日の敬老式
毎年恒例の秋田市大住地区におじやましました。皆さんお元気で子どもたちの出し物ににんまり



何んか滑稽ですよ！土砂降りの中盛んに話しております。恒例の500歳野球での「コマ」です。全身ずぶぬれは言うまでもありません。熱意は伝わったと思います。・・はい

10月

17日 秋田市寺内の秋田城跡で恒例の東門ふれあいデーが開かれ、地元の人たちが貴重な遺産とふれあいました。



17日参議院予算委員会に初めて出席しました。差し替え要請で急遽決まりましたが、これまでは傍聴でしたのでやや興奮気味に座席に、自分の名札があったのにはびっくりです。3時間があっという間でした。



本荘SFローカルコンベンションが今年も開かれ、仲間の皆さんが駆けつけてくれました。恒例のオークションにはアニメの台本も登場？詳しくは次のページで・・・



大館市片山地区の皆さんが国会見学会に訪れました。大勢の来訪に事務所もてんてこ舞いの1日でした。

陽悦紀行



11月



1日、芸術の秋にふさわしく音楽議員連盟の30周年を祝う会が開かれ持ち前のノドを披露しました。ねじれ国会でぎくしゃくしている与野党の皆さんも、ここでは意気投合です



上の2枚は場所が違います。左は3日から東京で開かれた恒例の実りの秋フェスティバル。右は1世紀を超える歴史を誇る種苗交換会、今年は湯沢市が会場でした。どちらも出来秋を祝うものですが、農業情勢は厳しい!



全国消費者生活相談員協会の創立30周年記念のつどいに招かれました。商品トラブルに対処する生活者の味方として、国民生活センターなどで活躍しているのですが、センターの縮小が叫ばれており、安心を確保するために頑張る決意を述べました。

秋田への想いは人一倍強い橋本さん、強烈な刺激を受けました



連合議員懇談会が30日に開かれ、セミナーでは、テレビでお馴染みの読売新聞特別編集委員の橋本五郎さんが講演しました。会場は超満員



来年度予算にあわせて全国大会がこの時期ひっきりなしです。地方分権改革推進大会と農業農村整備の集いに出席。会場に響き渡る持ち前の『美声』で元気に秋田です

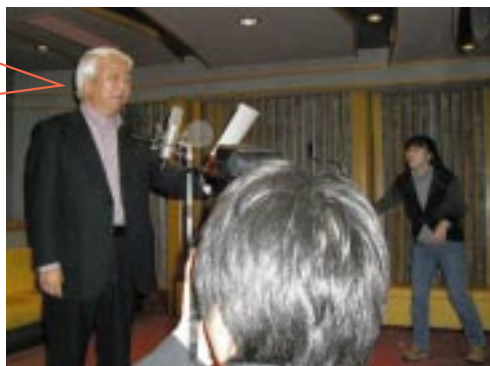
4日経済産業委員会の一般質疑が行われ、すずき議員は災害対策特別委員会に続き質問に立ちました。福田総理の所信表明を受け、地方格差の是正が焦点となっている事を確認し、使い勝手の良い、地方の事情を理解したこれまでにない支援策を求めました。



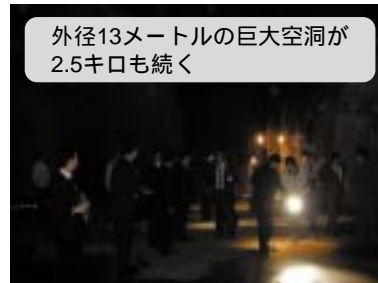
12月

カラオケではありません。都内某スタジオでの録音風景です。昔取った・・・ではありませんが、ほぼ一回でOKができました

実はこの方は秋田にゆかりのあるアニメーション監督で、その作品“BLUE DROP”に声優デビューしちゃいました



外径13メートルの巨大空洞が2.5キロも続く



災害対策特別委員会の視察が12日行われ、都内神田川・環状7号線地下調節池を見ることができました。

地下46メートルに巨大なトンネルが走っています。神田川水害の教訓から、平成9年に完成し大都会の防災を担っています。ちなみに18年度末まで20回の出番がありました。



東京生まれですが、秋田は父の仕事の都合で小学校時代を過ごしました。作品は都内でTV放送しましたが、秋田の皆さんにも見て欲しい!

地下46メートルでの記念写真



国会探訪

憲政記念館

国会議事堂には広い前庭があります。約5万平方メートルの広さがありサクラ、ハナミズキの他、ツツジ、ツバキなど多くの草花が四季をいろどり東京の中心地にあるオアシスとして親しまれています。



月に開館しました。

ここには、議会政治を実施してきた国の組織や運営などを資料や映像によってわかりやすく紹介するとともに、憲政の歴史や憲政功労者に関する資料を収集して、常時展示したりテーマ毎の特展展を催しています。常設展は、映像やディスプレイなど年々充実し、学校の見学者用の体験型コーナーから研究者用の情報検索PCまでそろった博物館です。憲政史シアターや議場体験コーナーなど各コーナーが設けられていますが、立体ビジョンでは、明治23年第一回帝国議会が開かれる様子を見ることが出来ます。

初めての議会で議長、副議長の候補者を選出するのになかなかまとまらず夜の11時までかかったエピソードが紹介されています。まさに「故きを訪ねて新しきを知る」という言葉につきます。第一回帝国議会が開会されてまもなく山県首相は所信演説で、明治24年度の国防予算について説明。それは他国に



負けない国家を築くために、軍備をもっと増強したいという政府の思いが大きく反映されたものでした。はたして3日後に衆議院議員33名を代

表して新井章吾が質問書を提出。「去る6日の総理大臣の演説というものは謹みて黙聴しておったところが、我々はこれをもって総理大臣が施政の方針に對しての演説とは信じていることができなかったのをごさいます」「質問者に込められた彼らの気持ちはこつじや。貧困に苦しむ民衆がいながら大砲や戦艦を作るために、なぜそこまで予算を使わねばならぬのかその理由を聞きたい」。これに對して、7日後の12月16日、首相に代わって、陸海両大臣からの答弁が行われた。陸軍大臣大山巖「そもそもわが帝国における軍備の目的は、國權の防衛として自衛にあると存じます。」



大日本帝国議會之図

海軍大臣樺山資紀「今日、もしも各國の軍隊が日本の沿岸に来たり、1万メートル以上も届くところの大砲をもって打ち続けられ、この議場の上に破裂するようなことがありましたら、諸君、いかがでございますか。かくのごとく生活苦の國民と増大する防衛費問題をめぐる議論が我が國議會の始まりの始まりであったということになります。」



議會ジオラマ

後藤清正が屋敷を建ててその後彦根藩の上屋敷となり、幕末には大老井伊直弼もここに住んでいたといいますが、昭和27年にこの土地は衆議院の所管となり、昭和35年には、憲政の功労者である尾崎行雄を記念して、尾崎行雄記念館が建設されました。その後これを吸収して現在の憲政記念館が完成しました。衆議院議員当選25回、議員として60年7カ月在職し、衆議院から憲政の功労者として表彰された尾崎行雄の足跡をしのんで、尾崎メモリアルホールも併設されています。入館料は無料です

新緑風会とは



「新緑5人衆」

議員活動は、役職、委員会、質問回数・時間、宿舎などは院内会派を単位に割当てられます。新緑風会、政友会、自由党、国民連合、日本共産党、国民新党、国民民主党、国民の力、国民の志、行動の力、国民の夢、未来を拓く。活動は前項に載せておりますが、現在は「新緑5人衆」として、主に参議院改革や統一見解の検討などの情報交換をひんびんに行っています。

民主党・新緑風会は平成6年に、参議院の2つの会派「日本・新生・改革連合」「民社・スポーツ・国民連合」が統一してきた会派の会派名として生まれました。2年後、民主党と合流して「民主党・新緑風会」となり以来民主党会派の名前になっています。

「新緑風会」の名前は昭和22年5月、参議院議員で作家の山本有三氏ら無所属議員が結成した会派「緑風会」にちなんでいます（元祖緑風会）。緑風会は「参院は良識の府」として是々非々の立場をとり、文化財保護法を議員立法で成立させるなど独自の活動をしました。「緑は七色の中の中央の色である。右にも偏せず左にも傾いていない」と山本氏はその由来を語っています。

現在の新緑風会には民主党と統一会派を組んで緑風会とは肌合いは異なりますが、年長の会派役員は無所属議員のことを口頭の会話で「緑風会の諸君」と言うのも独特の存在があるからでしょう。政党化により「衆議院のカーパーティ」と言われ、その存在価値が問われている今こそ「新緑風会」のある意味自由闊達な活動が、国会にひと味加えられるのではないのでしょうか。単なる無所属ではない最も参議院議員らしいと言われる風格が出てくるように。最年長のすぎき議員を囲んで、新緑風会5人衆、意気盛んです。



森田 高 広田 一 友近聡朗 戸山 斎 (富山) (高知) (愛媛) (宮崎)

ご案内

今年も恒例のすぎき陽悦を囲むスプリングパーティーを開催します。減多にお目にかかれぬ皆様に元氣な姿と、国政の報告をさせて頂いているもので、お気軽にご出席を。

前回のパーティー



08 参議院議員 すぎき 陽悦を囲む スプリングパーティー
とき 2月8日(金) 午後6時
ところ 秋田ビューホテル

編集後記

参院選挙後「民主党・新緑風会・日本」会派入りしたすぎき陽悦議員、三年目の任期折返しを迎え気合い充分。議員会館の様子は大きく変化。FAX・メールの件数は数倍。経済産業と災害特別の二つの委員会所属。議員会館を訪問する人の数も増えました。参議院職員がすぎき議員を理事、理事と呼ぶのもいとおかし。郵送される要請文にも理事のマーク。まさに分刻みのスケジュール。ダブル・トリプル日程に走り回る日が続く。部屋のわか杉団体のノボリ旗は全国植樹祭に変わりました。(川上)

『政界一寸先は闇』のように見えるが、すべては『民意』の現れ。参院選の結果、遅きに失した安部総理の辞任、与野党逆転の国会打開策としての連立構想とその破綻を求めたのは参院選で示された民意。秋田事務所もスタッフ強化され、すぎき議員の活動をフォローするとともに活動を知ってもらうための行動を進めて行きます。『闇』ではなく『民意』のために。(秋田事務所)

「東京都の300億円を地方に」が見出しを賑わしました。先日のTVニュース番組に猪瀬東京都副知事が生出演し、いかにも地方に貸したの方便、虫唾が走りまわった。ある意味、地方があつての東京ではないのですか。驕りですね。小泉、安倍、福田政権で、生活が脅かされ、人権が侵され、生命が危なくなっていると感じています。直感ではありません。行政の危機、司法の危機、最近おかしいと親戚の若者からマジに言われ、今考えています。(Y・K)